公益社団法人千葉県看護協会

保健師職能だより

2025年春号

すっかり暖かくなってきました。保健師の皆様、新年度も忙しくお過ごしでしょうか。
保健師職能委員会では、看護協会での活動内容や保健師活動の様子などを取り上げ、県内の保健師の皆様とつながり、活動を進めていくことを目的として、保健師職能だよりを発行しています。

令和７年２月２７日（木）

保健師職能交流会を開催しました

オンライン研修　参加者　４４名
慶應義塾大学看護医療学部　田口敦子教授　加藤由希子助教を講師に迎え、
「保健師の記録のデジタル化を考える～その効果と課題～」をテーマに講演をいただきました。

今後のDXの推進工程から始まり、保健師記録の位置づけ、公文書としての記録の考え方、電子化にあたっての課題等 幅広い講義と先生が現在開発中の保健師版マネジメントツールについてのお話を伺いました。
終了後アンケートからは、「今できることを話し合い共有することの大切さ」や「日々の記録に対する責任や正確性など記録の書き方・重要性についての再認識ができた」などの意見が聞かれ、改めて記録について考えるきっかけになりました。

令和７年度　保健師職能集会のお知らせ

テーマ：災害支援における多職種連携について

日時：令和７年６月２５日（水）１４：００～１６：００
会場：TKP東京ベイ幕張ホール
講師：人間総合科学大学保健医療学部看護学科
吉岡　留美　先生
対象：県内在住・在勤する保健師・助産師・看護師
（協会員でない方も参加可）

日本国内だけでなく、国際災害における派遣経験も豊富な吉岡先生から、保健師チームを含めた連携の実際を学び、災害時に支援にあたる支援団体・チームが、どのような役割を持ち活動するのかを理解し、災害支援の対応力の向上を目指しましょう。

看護協会入会のご案内

看護協会は、看護職の活動を支援する職能団体です。千葉県に勤務または居住する看護職であればいつでも加入できます。たくさんの保健師の仲間が加入することで、県内全体の保健師活動に関する情報・意見交換などもできるようになります。また、看護協会からの発信や研修会など自分自身のスキルアップにつながるような情報が沢山あると思いますので、ぜひ入会をご検討ください。

千葉県看護協会保健師職能委員

千葉県
看護協会HP

能登半島地震での災害時保健活動についてのご紹介

保健師活動報告

災害時保健師活動の実際～令和６年能登半島地震に係る保健活動紹介～

松戸市総務部人事課医務室　岸田裕子

松戸市は千葉県の北西部に位置し、都心から約20㎞、電車で約30分の距離に位置し、首都圏の住宅都市として令和6年6月7日には住民基本台帳人口が50万人に到達しました。一方、出生数は減少、高齢者人口は増加傾向で、令和6年の出生数は2,895人、同年9月末日現在の高齢化率は25.8%となっています。

私が所属している医務室は、職員の健康管理業務として、定期健康診断、ストレスチェック、心身の健康相談、病休からの復職相談等を担っています。また、本市には保健師が73人勤務し、各部署に分散配置されていますが、災害時派遣については『松戸市災害時保健師・看護師一括集約マニュアル』に基づき、実施される仕組みがあります。

今回、令和6年1月1日に発生した能登半島地震においては、厚生労働省から千葉県を通じ、県内の各自治体に応援派遣要請がありました。本市は先のマニュアルに基づき、統括保健師が庁内調整を行い、千葉県チームの第4班として令和6年2月6日～12日まで、保健師2人、管理栄養士1人、ロジ（事務職）1人の4人1チームで、加賀市にある旅館やホテルを2次避難所※としている避難者の健康支援を行うことになりました。

災害時保健活動の目的は『災害発生時に、住民の生命・安全な暮らしの確保を図り、避難生活に伴う二次健康被害を予防しながら、被災地全体の早期復興へ向けた支援を行うこと』とされています。今回の主な活動は、2次避難所での慢性疾患の悪化予防、感染症・食中毒予防などで、千葉県チーム第3班からの引き継ぎ後、加賀市保健師の指示のもと、活動を行いました。

2次避難所の避難者は高齢者が多く、発熱や下痢など感染症で体調不良となる人、元々の慢性疾患に加え新たに高血圧や不整脈の症状を呈する人、持病の薬がなくなった人、他人同士である同室者とのストレスを抱える人など長引く避難生活上の健康課題が山積みでした。

健康支援活動として実施したことは、①面談や電話による健康状態の確認や相談（管理栄養士による栄養相談含む）・服薬確認・受診確認、②医療機関への受診調整・搬送依頼、③JMAT による診察の同行、④災害処方箋による処方薬の配付などでした。加賀市では避難者の基本情報や健康状態をデータベース化しており、タブレット端末で日毎の要支援者の一覧や健康状態を確認することが出来ました。

活動の中では加賀市の保健師や宿のオーナーと相談し、セルフケアのための血圧計を設置したり、体調不良者向けにお粥を提供していただいたりしました。一方、避難者の気持ちの落ち込み、運動不足や栄養の偏り、新たな感染症の発生、ADL の低下など、二次健康被害を予防することの難しさも感じました。

千葉県第4班：右端が筆者

また、私が働く医務室では、職種にかかわらず災害応援派遣職員を対象に IES-R ストレスチェック調査を実施しておりますが、自分自身応援派遣を経験し、改めてその必要性を確認できました。

本市では、管理職保健師で構成されている保健師連携推進会議において災害時保健医療活動について、訓練や研修を実施していますが、今後は受援についての検討も必要であると考えます。引き続き、災害発生時に市民の命を守るための対策を検討するとともに、災害対応にあたる職員の健康支援についても考えていきたいと思います。

※ ここでいう2次避難所とは、一般的に言われている福祉避難所ではなく、自立した生活が可能な方、家族の介助によって生活が可能な方を対象とし、安全で環境の整った旅館やホテルなどが避難場所となります。